

「原発事故後の農業と地域社会の再生を読んで」

私が印象に残ったのは三つある。一つ目は、帰村した農家さんたちの心構えである。原発事故によって農家にこれほど大きな被害を受けていたとは驚いたが、営農再開などあきらめている人が多くいたのにも関わらず、帰村してからいつまでも失望してはいられない、こんなところで負けるわけにはいかないと立ち直る農家さんの姿にとっても感動した、困難を乗り越え、前に進もうと努力する強い姿勢や強い意志を感じ、私も勇気づけられた。二つ目は、農地除染法の開発についてである。特に、「までい工法」に込められた意味は印象に残った。農地除染法は、次世代の人々が安全な食生活を送り、また環境の保全に関わる大事な取り組みだと感じた。この取り組みがなぜ公的に採用されなかったのか疑問に思った。しかし、この取り組みを無駄にしないよう、今後再汚染の防止を徹底的にしていかなければならないと思った。また、までい工法のように多くの人々の願いや希望が込められた取り組みであると感じた。三つ目は、飯舘村の課題である若者の減少に関してである。若者の力がどれほど大きいのかを知った。村を維持するには若者が必要であり、村の未来を明るくするには若者がいかに行動するかだと感じた。他の例で、少子高齢化によりまちの活性が無くなっている話をよく耳にするが、若者を増やすには若者がまちに魅力を感じることが大事だと考える。イベントの開催や地域住民同士のコミュニティ形成など、まちを活性化させ、魅力を持たせることが必要だと感じる。同じように、飯舘村に若者を増やすには、村に魅力を持たせることが必要だと思った。

「ウィズ生成 AI の時代を生きる」を読んで

ChatGPT が最近流行っていることは知っており、私も実際に使ったことがある。時々、言葉の意味など何か分からないことがあった時は ChatGPT を使用している。すぐに答えを返してくれてとても便利なものだと思う。しかし、このような AI の取り扱いには注意が必要だと考える。例えば、SNS で ChatGPT との対話が生きがいで、AI に依存している人を見かけたことがある。ChatGPT との対話で孤独感が軽減されるなど、前向きなことに繋がればいいが、依存は様々なリスクがあるのではないかと感じた。AI との対話に夢中になることで現実世界から逃げ、人間関係を疎かにしてしまう可能性がある。AI とは適度の距離感が必要だと思った。AI は役に立つことに生かせるならたくさん利用すべきだと思うが、まだ完全に信頼できるわけではないので注意しながら利用し、様々な分野で開花してほしいと思った。